

東海書道藝術院

令和7年4月

<http://www.toshogei.jp/>

第72回公募 東海書道藝術院展 開幕

会期・令和7年4月8日(火)～13日(日)

第1会場・愛知県美術館ギャラリー
第2会場・名古屋市民ギャラリー栄

四月陽春、清らかで生き生きと光輝く好時節。いよいよ第七十二回展の幕開けだ。作家の美意識と人間性を作品に込めて百花斉放、両会場に多彩な墨花が咲き誇った。東書藝の書の原点は自由。黒白の響き合う空間、充実した作品群をお楽しみください。



会長 風岡五城

会長挨拶

清明の候、第七十二回東海書道藝術院展の開幕を迎えました。先ずもってこのたびご受賞・ご入選されました皆様には、心よりお慶びを申し上げます。

また本展を開催するにあたり、役員の先生方をはじめ会員の皆様のご尽力、あるいは関係各位のご支援に対して厚く御礼申し上げます。

会場は、愛知県美術館ギャラリーと名古屋市民ギャラリー栄の二会場となりますが、どちらにも足をお運びいただき、じっ

くりとご鑑賞いただければ幸いです。

作品を見るということは、分かるか分からないかということより、何を感じるかということとを大事にしてご覧いただければと思います。言い換えれば、頭で理解しようとするのではなく、目と心で感じるということだと思います。同じものを見ても、感じ方はそれぞれです。それでいいのだと思います。

ただ本展に出品している者については、そうは楽しんでばかりはいられない心情もわかりま

す。できるだけ客観的に分析して次へつなげる機会にすること、もまた大事ななことだと思います。

大賞・近藤秋香(鈴鹿市)、
準大賞・阿久津研道(亀山市)
の両氏に決定

第72回展審査会

第七十二回展の審査会は、三月五日・六日に名古屋市の東桜会館で行われた。審査部を中心に各部担当者、事務方の全員がチームワークよく協力して円滑に作業が進められた。

審査の先生方は候補作の一点一画まで慎重にそして厳しく鑑別され、それぞれの持ち点を投じられた。今回も同点決勝が何度かある接戦で、作品の水準がよく揃っていた。

かくして六日午後、大賞以下すべての受賞者が決定して審査会は終了した。

第72回 東書藝展

各部 受賞者名

会員の部

後藤 楊柳

【市教委賞】

堀場 春陽

加藤加壽子

【東書藝賞】

林 直人

中川 弘美

平野 南州

福田 桂雪

【大賞】

鈴木 萌園

野口 昌子

服部 黄華

大塚真由美

【特選】

稲垣 暖華

平子 幸子

向井 奇世

石田素代香

近藤 秋香

谷口 桂月

【中日賞】

小川 清秋

曾貝多恵子

村田侑里恵

【準大賞】

【秀作】

高嶋 里奈

松田 恵花

【県教委賞】

宇佐美 諄

舟橋みどり

安達 啓美

藤澤 郁夫

阿久津研道

田中 愛乃

前田 翠華

水貝 光華

伊藤 煌華

【推薦】

菅原 玉翠

後藤 南星

矢島 光萩

水野 律子

【知事賞】

園田三輪子

【東書藝賞】

足立紀代子

【市教委賞】

山口 白華

大河内栄州

西 玉鳳

森本 春光

【総領事賞】

小倉 一鳩

【推薦】

猪飼 龍雲

岩田 春光

若宮 舞奏

猪飼 龍雲

岩田 春光

【中日賞】

野呂 妙香

【特選】

安田 加奈

稲葉 畊雲

駒田香代子

安田 加奈

稲葉 畊雲

【東書藝賞】

今田 春恵

岩本 恵子

富永 邑璃

土井早知子

河田 春香

【推薦】

杉原 照楓

石川 芙瑤

三苫 花風

早坂 幽蘭

【特選】

【市長賞】

鈴木 啓心

木村 昌次

小松 あゆ

下山 竹葉

長谷川華芳

梅林 香堂

根岸 朋華

【県教委賞】

【秀作】

蒲野 綾扇

岡田 紅凜

西本 吟華



会場で審査する先生方

加田 麗芳

高井 花香

柳原 博樹

小島 秀華

満仲 春花

【秀作】

長谷川剛士

【中日賞】

松本 林泉

増田 白崖

水谷 友二

大黒 澄心

山口 美風

滝口 玉道

小松 るか

山本 英碩

瀨瀬 崇矩

森 草舟

加藤加壽子

【東書藝賞】

林 直人

中川 弘美

平野 南州

福田 桂雪

大塚真由美

【特選】

稲垣 暖華

志水 愛泉

木村 緑水

加藤 英子

曾貝多恵子

村田侑里恵

宇佐美 諄

舟橋みどり

安達 啓美

藤澤 郁夫

【県教委賞】

村田侑里恵

宇佐美 諄

舟橋みどり

安達 啓美

藤澤 郁夫

伊藤 煌華

【推薦】

菅原 玉翠

後藤 南星

矢島 光萩

水野 律子

【市教委賞】

山口 白華

加藤 玉扇

【中日賞】

江沼 朝美

【東書藝賞】

木村 彩華

生馬 暁風

木村 彩華

伊藤 芳苑

横井 花音

鈴木 優子

島田 真峰

真峰

木村 一晃

野村 邦子

宮地勢津子

川口 敦子

早瀬 雪花

石原 志乃

岩橋 道子

金澤 明子

小川 緑穂

長瀬千枝子

藤井 紫薫

上沼 紅林

蛭川 晴峯

【特選】

上沼 紅林

上沼 紅林

上沼 紅林

上沼 紅林

金澤 明子

小川 緑穂

長瀬千枝子

藤井 紫薫

上沼 紅林

上沼 紅林

岩橋 道子

金澤 明子

小川 緑穂

長瀬千枝子

藤井 紫薫

上沼 紅林

金澤 明子

小川 緑穂

長瀬千枝子

藤井 紫薫

上沼 紅林

上沼 紅林

岩橋 道子

金澤 明子

小川 緑穂

長瀬千枝子

藤井 紫薫

上沼 紅林

金澤 明子

小川 緑穂

長瀬千枝子

藤井 紫薫

上沼 紅林

上沼 紅林

岩橋 道子

金澤 明子

小川 緑穂

長瀬千枝子

藤井 紫薫

上沼 紅林

金澤 明子

小川 緑穂

長瀬千枝子

藤井 紫薫

上沼 紅林

上沼 紅林

岩橋 道子

金澤 明子

小川 緑穂

長瀬千枝子

藤井 紫薫

上沼 紅林

金澤 明子

小川 緑穂

長瀬千枝子

藤井 紫薫

上沼 紅林

上沼 紅林

第72回展審査員

(敬称略)

審査長

風岡 五城

会員・準会員の部担当

安藤 清舟・谷口 竹城

松浦 白碩・鈴木 紫舟

木村 大澤・伊藤 春魁

富永 奇昂

会友・公募の部担当

水谷 紅楓・安藤 餘香

山本 晴城・井口 清華

大竹 翠葉・荻野 芝翠

近藤 春雪・吉田 南洋

'25 今 日 の 書 展

令和七年の年が明け、三十八回目となる中部圏書芸作家協議会・中日新聞社主催、'25今日の書展が一月七日〜十三日、愛知県美術館ギャラリーで開催された。協議会を構成する四団体、書典社十三、以文会四十七、玄玄書作院四十八、我が東書藝から八十三、計百九十一点を展示。各団体がスローガンを掲げ、この地方の書活動の活性化を目指す。作風はバラエティーに富み、特色が表現されていた。主な幹部作品を掲載します。(敬称略)



会場風景

秀麗玉芙蓉 風岡五城

昨日何所か行くと其の所々
外も平陽記の如く其の所々
外も平陽記の如く其の所々

我が東書藝の如く其の所々
我が東書藝の如く其の所々
我が東書藝の如く其の所々

人生貴適意 安藤餘香

人生貴適意 安藤餘香

人生貴適意 安藤餘香

龍驤麟振 富永奇昂

第40回記念 景雲社「絆」書道展

令和七年二月二十四日〜三月二日、クリエート浜松三階ギャラリー31で開催。

「楽しんで、書くよし、見てよし、結果よし」40回記念展

景雲社理事長 勝田晃拓

五年前は、開幕直後から恐怖ウイルスが世の中を一変させた。我が社中もその間厳しい現実と向き合い、書の存在意義や進むべき道を求めて試行錯誤の連続で、悩みながらも弛まず取り組み漸く四十回に辿り着いた。

記念展として何が出るか？
：書が出来
る有難さ・
喜びを感
じ、醍醐味
の大作はも
ちろん、手



会場風景

軽なミニサイズまで、筆と戯れた多くの筆跡には各人の筆意がふんだんに盛り込まれて、連日来場者の足を釘付けにした。

特別コーナーでは、万博懐古ジオラマや、ツボの異色大作も人気を博した。楽しんで書くことをラク（楽）ガキと言う。本作品に對峙した会員たちの満面の笑みが、如実にそれを物語っているよう。上手になりたい一心で始めた書が、上手く書けぬ我欲でいつしか義務情性的書作に終始していた自分に、ハッとする瞬間だったに違いない。

最終日、社中自慢の小中学生書道パフォーマンスが大勢の観衆が見守る中で華麗に繰り広げられ、記念展感動のフィナーレに花を添えた。



第60回 新春東書藝代表作家展

令和七年の新春を彩る第
六十回新春東書藝代表作家展
が、一月二十一日～二十六日、
名古屋電気文化会館東ギャラ



会場風景

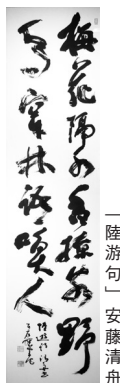
リーで開催さ
れた。東書藝
幹部・役員から
四十四名の出
品。その作品群
が、日々の研鑽
を礎とした自由
で大胆な書表現
の結集として壁

面を飾っている。作家がそれぞ
れに思いを込めた墨跡が、来場
者を惹きつけていた。

東書藝の一年のスタート、
六十回展にふさわしいと言える
展覧だった。



「春和貽蕩」 風岡五城



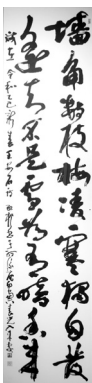
「陸游句」 安藤清舟



「白居易句」 木村大澤



「王安石詩・梅花」 水谷紅楓



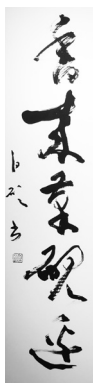
「八木重吉の詩」 谷口竹城



「薛嵎句」 松浦白碩



「孟浩然詩」 福井溪風



「救世主」 吉田南洋



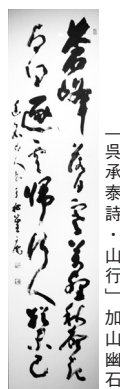
「君看雙眼色」 三品芳翠



「飛」 石川青崖



「李白詩」 羽根田菫橋



「吳承泰詩・山行」 加山幽石



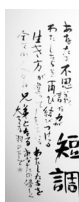
「慶」 富永奇昂



「無題」 堀場仁翠



「歡喜に寄せて」 渡辺清香



「王維詩」 羽根田菫橋



「權一志貴皇子の歌」 大竹翠葉

出品作家

風岡五城 松浦白碩 今枝大桂 土屋麗泉 松岡餘香 安山本晴 井口幸澤 江口雪華 荻野根堀 三品芳翠 吉田南洋 安藤清舟 藤谷山根 清水羽本 伊藤浅石 岩老林堀 宮渡 清紅幽橋 芝春桃 鴻本川 麗磐本 渡 舟楓石橋 青魁苑 羽蘭舟 水泉翠 楓香 谷川鈴間 木富荒 伊内大 長福增 村 口青木 瀬村永川 藤田大 竹翠升 天 城崖舟園 澤昂曠 邨山葉 香風翠 謙 竹青木 瀬村永川 藤田大 竹翠升 天 城崖舟園 澤昂曠 邨山葉 香風翠 謙

令和7年 東書藝院人研修会

令和七年二月九日(日)、愛知県芸術文化センター12階アートスペースAにて、八十余名が参加して院人研修会が行われた。

研修内容は、開会のことは、第一部講演「富岡鉄斎の画賛について」、第二部「NHK放送番組日曜美術館」の録画視聴。司会は安藤餘香副理事長が務めた。先ず風岡五城会長が、「今日の研修会で学んだ事が今後の作品制作にどう生かされてくるか楽しみにしています」と、開会のことを述べられた。次に第一部、藤井達吉現代美術館・豆田誠路先生の講演。その内容を以下にまとめた。

令和7年2月9日

院人研修会

「富岡鉄斎の画賛について」

講師 豆田 誠路 氏

(碧南市藤井達吉現代美術館主任学芸員)



□鉄斎の自己認識

「…南画の根本は学問にあるのぢや、そして人物を研かなけりや、描いた画は三文の価値もない…新しい画家に云って聞かせたい言葉は、万巻の書を読み、万里の道を行き、以て画を成す只これだけぢや。」

「私は元来画家ではない。儒者だ。…余技に画は描いてゐるが意味のないものは描かぬ。何か世の戒めになるものをかく。」

「私の画を見て下さるなら、第一に画讀から読んで貰ひ度い。私は意味のないものは描いてゐないつもりぢや。…」

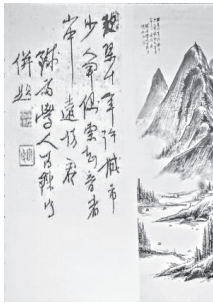
(正宗得三郎『富岡鉄斎』)

錦城出版社

□鉄斎の書体

・三十歳代前後

「針金落款」の時代



・三十五歳

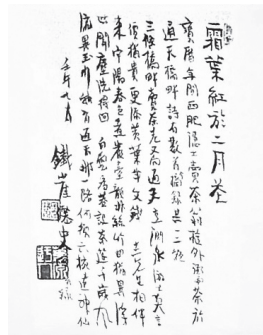
筆圧が加わり、遅筆で重厚な書風。いびつでけだるく奇怪な風趣は鄭板橋(清)といはんきよ

う)の影響か。

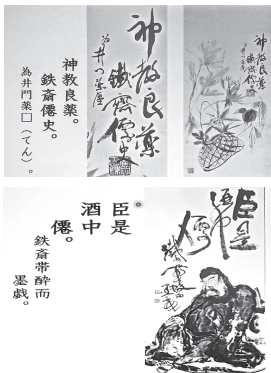


・四十歳代半ば

起筆を強調し、打ち込みが明瞭。前傾の結構と左払いの線の強調が目立つ。金冬心の影響か。



□鉄斎作品



□鉄斎と碧南

鉄斎は明治二十二年(一八八九)頃、伊賀上野で石川三碧と出会

う。三碧南は碧南で味淋醸造業を営む石川家の二十五代目。落ち着いて画を描く所を探していた鉄斎は、同年から石川邸に逗留する。この時から続いた親交は大正(一八九五)に三碧が死去するまで続いた。



和合万福図
(夫婦の金婚式を祝す)

このように鉄斎像、三十代から八十代までの作品・画賛ダイジェスト、また石川三碧コレクションからの作品紹介・解説を丁寧にして下さった。

第二部は、NHK日曜美術館、「老いるほどに輝くー最後の文人画家・富岡鉄斎ー」の視聴。第一部・豆田先生の講演を拝聴した後なのでより理解が深まった。

最後に木村大澤理事長の閉会の言葉。研修部へのねぎらいと、書だけでなく画・詩などで感性を磨いてまた書に生かしていくこと、そして漢詩・漢文の教養の必要性を説いて研修会を締めくくられた。

第15回記念有鄰書展

令和七年三月十二日～十六日、岡崎市美術館にて。

15回記念展に寄せて

有鄰会代表 安藤餘香

神谷葵水先生が亡くなられた後、有鄰会を立ち上げ無我夢中でやってきて、お蔭様で十五回の展覧会を開催することが出来ました。最初は故・渡辺静流さん達の「葵友会」と一緒に展覧会をしてきましたが、渡辺さん亡き後単独開催となり、会場面積が二倍ということもあって、会員の皆さんには大作に挑んでいた



会場風景

くなどして何とか会を盛り上げて参りました。十回展の時には岡崎で新型コロナウイルス感染が

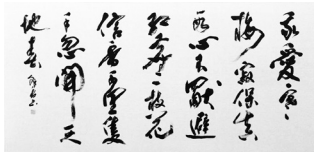


「鶯花」左：安藤餘香代表 右：鈴木礼美氏

ニングもありましたが、今回まで続けてこられた事は本当に感謝しありません。

会員数は高齢化等もあって発足時より少なくなっています。が、作品作りに対する熱意は回を重ねるごとに増してきていると思います。それは、この十五回展を觀て下さった方々にはきつと感じていただけたのではないかと思います。

今後は二十回展を目指し、より一層努力して参りたいと思っています。



「寒梅」安藤餘香

「左思詩」鈴木礼美



今後の予定

- ◇第66回新道書道会展
会期 4月25日(金)～27日(日)
会場 四日市市文化会館
主催 新道書道会(豆子紫甲)
- ◇第46回宏道書会選抜展
会期 5月7日(水)～11日(日)
会場 栄サンシティギャラリー
主催 宏道書会(山本晴城)
- ◇第67回游心書展
会期 6月4日(水)～8日(日)
会場 愛知県美術館ギャラリー
主催 游心書道会(松浦白碩)
- ◇第30記念回無名會書展
会期 6月10日(火)～15日(日)
会場 名古屋市民ギャラリー栄
主催 無名會(渡辺清香)
- ◇令和7年度東書藝総会
会期 6月15日(日)
会場 中電ホール
◇25回八千代書道展
会期 6月28日(日)～29日(日)
会場 くわなメディアライズ多目的ホール
主催 書芸八千代会(梶蘇山)
- ◇25「今日の書」代表作家展
会期 7月8日(火)～13日(日)
会場 名古屋市民ギャラリー栄
主催 中部圏書芸作家協議会
- ◇第48回公募梓会書道展
会期 7月15日(火)～21日(月)
会場 愛知県美術館ギャラリー
主催 書道研究梓会(勝川香艸・伊藤春魁)
- ◇25心象展
会期 8月13日(水)～17日(日)
会場 愛知県美術館ギャラリー
主催 好日社(鈴木紫舟)
- ◇第41回清和会書展
会期 8月19日(火)～24日(日)
会場 名古屋市民ギャラリー栄
主催 清和会(牧野邑翠)
- ◇東書藝夏季一泊研修会
会期 8月24日(日)～25日(月)
会場 湯の山グリーンホテル(三重郡菰野町)
- ◇第59回碩山書院一門展
会期 8月30日(土)～31日(日)
会場 蒲郡市民会館東ホール
主催 碩山書院(大竹翠葉)
- ◇第51回宏道書展
会期 9月2日(火)～7日(日)
会場 名古屋電気文化会館
主催 宏道書会(山本晴城)
- ◇第28回東書藝選抜小品展
会期 9月9日(火)～14日(日)
会場 栄サンシティギャラリー
主催 東海書道藝術院
- ◇第43回飯田書人会展
9月開催予定
会期、会場未定

(編集後記は省略しました)

令和七年四月 第一五四号

発行 東海書道藝術院
編集 加藤松亭

堀江龍舟